

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター倉敷学園 保育所等訪問支援事業		
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日	～	令和7年3月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日	～	令和7年3月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	令和7年2月1日	～	令和7年3月10日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	3	(回答数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さんの特性に合った支援を行うこと。	お子さんの特性、発達状況を把握した後、所属先に訪問する。声のかけ方や関わり方、環境設定等を支援に取り入れて、所属先の先生方と共有している。	継続していき、お子さんの集団適応力を高めていく。
2	ご家族、所属先のニーズに沿った支援を行うこと。	ご家族の考え方を聞き取り、どのようなニーズがあるのか把握する。また所属先でのお子さんを取り巻く環境を把握し、どのような困り事があるのか聞き取りながら目標を設定する。	継続していき、ご家族の思い、所属先のニーズに沿いながら支援を行っていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問職員の確保。	訪問業務と他業務の兼務が主である。	訪問日の調整と、他職員との役割分担を行う。
2	学齢期以降の支援のスキルアップの機会が少ない。	幼児期支援の経験を持つ職員が多い。	自立支援協議会での意見交換や研修を行う。法人内の事業所へ研修に出向く。
3			